



ご来園の皆様の感染症予防のために

- ◆ ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆ ご入園の際は、体温確認させていただきます。
- ◆ 園内では、マスク等を着用し、人との距離の確保をお願いします。
※ 人との距離を十分に取ったうえで、適宜マスクを外すなどの休憩をとり熱中症の予防を心がけてください。
- ◆ 未来くん広場(遊具・きのこ文庫)を閉鎖、観覧温室内の昼夜逆転室を閉室しています。
ご理解ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

※7月から 講演会・講習会等を順次再開しますが、定員30名以内ですのでご理解ください。

※お待たせしました!!

- 7月4日(土)から「土曜ミニミニガイド」を再開します。
- 7月5日(日)から「園芸相談(来園相談)」を再開します。

第18回 富貴蘭展

○日時 令和2年7月3日(金)～7月5日(日)
午前9時～午後5時(最終日は午後4時まで)

○場所 植物園会館1階 展示室

○内容

富貴蘭約200点を展示します。

富貴蘭は風蘭(フウラン)といわれる野生種の姿形が変わったものや珍しいものを選び出したもので、江戸時代に大名をはじめとする貴人たちが愛好し、明治時代には京都でも盛んに栽培されました。

葉の形・模様、花や根先の色など多彩な変化を楽しむことができます。

可憐な花から漂う芳香も魅力です。

※会場では販売コーナー、相談コーナーも設けられます。



講習会のお知らせ

日時: 7月5日(日)
午後1時30分～3時
(当日会場受付: 午後1時～)

内容: 富貴蘭の育て方
講師: 趣味の富貴蘭会京都會員
定員: 先着30名
参加費: 無料(別途入園料が必要)
会場: 植物園会館2階 多目的室

「植物園オンライン・ミニミニミニガイド」

「土曜ミニミニガイド」のオンライン短縮版です。



技術課職員が植物解説!



スマホdeガイド



QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! 「おすすめ樹木めぐり」「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察!

「おうちでお花見」

「週刊オススメ植物情報」の代替版です。



植物園芸相談 ※当面の間は電話での相談対応となります。

- 毎週日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時
- 電話075-701-0141で



※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!
大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



今週の「探して！」
2020. 6. 26
7号

⑫ イクソラ フケリ

アカネ科。マダガスカル原産。花色ははじめ白色で、後に黄色に変化する。細長い花筒の基部には蜜があり、受粉を行うマダガスカル固有のスズメガの仲間のみがその甘い蜜を吸うことができる。花は甘い香りがあり、特に午前中よく香る。

⑪ タイサンボク

モクレン科。北米原産。アメリカを代表する花木の一つで、米国では50種類以上の園芸品種が作出されている。甘く強い芳香があり、香り成分から香水も作られる。雄しべ雌しべが太く集まっていることが特徴で進化初期の形質を示す。

⑩ パラミツ

クワ科。インドからバングラデシュが原産。雌雄同株。キノコバエの仲間が花粉を運ぶ。果実は長さ70cm、幅40cm、重さ40～50kgに達することもあり、世界最大の果実と言われる。英名では「Jack fruit (ジャックフルーツ)」。

⑨ パッシフロラ

トケイソウ科。属名のパッシフロラはラテン語で「受難の花」を意味し、花の形を十字架にかけられたキリストに見立てて付けられた。また、三分裂した雌しべが時計の針のように見えるため、日本では「トケイノ」と呼ばれることが多い。

① ネムノキ

マメ科。本州、四国、九州、沖縄、東アジア～南アジア原産。裸地に最初に侵入して定着する先駆植物(パイオニアプランツ)の一つ。夕方になると羽状に向かい合う小葉が閉じることから、まるで眠っているようだとこの和名が付いた。

② アガパンサス

ヒガンバナ科。南アフリカ原産。別名「アフリカンリリー」と呼ばれるほか、君子蘭に似ていることから「紫君子蘭(ムラサキクンシラン)」という和名もある。ギリシャ語で愛を意味する「agape」と、花を意味する「anthos」が名前の語源。

③ ハス

ハス科。インド、中国、日本などに自生。花は日の出から咲き始め、昼頃には閉じてしまう。この開閉を約4日間繰り返した後、花びらが散る。和名の「ハス」は、花が散った後にできる果托(かたく)が蜂の巣に似ていることに由来。

④ ノウゼンカズラ

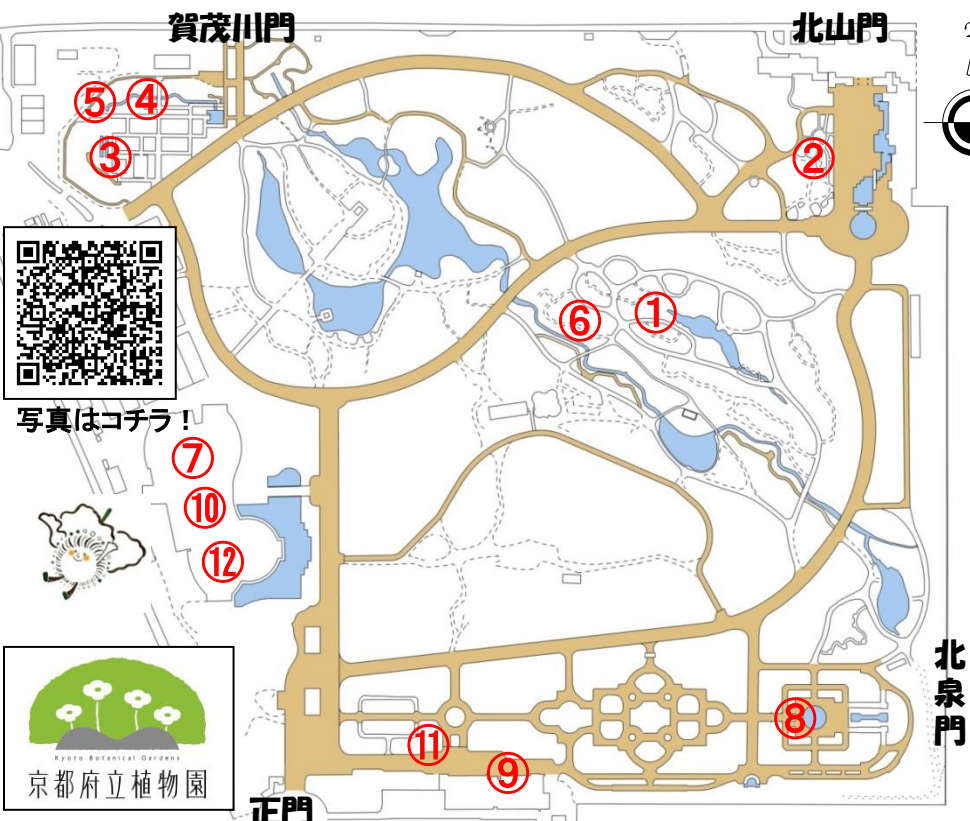
ノウゼンカズラ科。中国中部～南部に分布。日本には平安時代に渡来した。一つの花の開花期間は短い、夏の間は次々と新しい大輪を咲かせ続ける。花は落下した後も色あせず、美しい状態がしばらく続く。

⑤ アーティチョーク

キク科。地中海沿岸原産。和名では「チョウセンアザミ(朝鮮薊)」と呼ばれる。欧州や米国では若いつぼみを食用としている。元は野生のアザミであったが、古代ギリシャ・ローマ時代以降、品種改良が進んで今日の姿となった。

⑥ ハンゲショウ

ドクダミ科。本州以南、朝鮮半島～中国の水辺や湿地に自生。花穂の基部の葉が白く脱色し、花を目立たせている。和名は夏至の11日後の「半夏生(はんげしょう)」に花が咲くことや、葉が緑を少し残して白くなる「半化粧」に由来。



写真はコチラ！



⑧ カンナ

カンナ科。熱帯アメリカ原産。観賞用のものはハナカンナと呼ばれ、トロピカルな雰囲気の花を夏から秋遅くまで観賞することができる。熱帯が原産のため、冬には地上部は枯れてしまうが、地中にショウガに似た根茎を残す。

⑦ エーデルワイス

キク科。ヨーロッパアルプスに自生。淡い白色の葉を薄く積もった雪に例えて、「セイヨウユスユキソウ」とも呼ばれる。エーデルワイスはドイツ語で「高貴な白」を意味し、アルプスのシンボルとして親しまれている。アルプス三名花の一つ。